

第1回

御嵩町リニア発生土置き場 に関するフォーラム

◆目次◆

(資料ページ)

①フォーラム開催の目的	1	～	2
②フォーラム運営のルール	3	～	5
③有識者紹介	6	～	11
④発生土置き場に係る経緯	12	～	18
⑤発生土置き場とは	(別冊) 1	～	13
⑥第2回以降のテーマ選定			

日 時：令和4年5月28日（土）

14：00～16：00

会 場：中公民館 3階大ホール

現 状

- リニア中央新幹線が御嵩町をトンネル等で通過
 - 御嵩町美佐野地内にトンネル坑口が位置し、施工ヤードの工事を実施
 - トンネル坑口から美佐野工区の建設発生土 → 発生土置き場計画
-
- 美佐野工区におけるトンネル掘削に伴う建設発生土の
受入れを前提として協議に入ることとしているが・・
 - ①置き場計画が「将来に亘り安全か」
 - ②「対策は十分か」等の確認が必要。
 - 御嵩町役場には地盤工学や土壌環境、水環境などの専門知識を持った職員はいない。
 - JR東海の説明内容の把握、対等の協議・確認が必要

目 的

①有識者を交えて

（JR東海の説明内容の解説、専門的助言）

②公開の場で

（話し合いの透明性確保）

③フォーラム形式で

（皆様のご不安やご心配ご意見を掘り下げながら）

話し合いを進めていこうとするものです。

町民の皆様のご不安やご心配を有識者の方とともに掘り下げ、必要となる対策を整理することで、ご不安やご心配の解消に努めます。

フォーラムで対象とする範囲

- 発生土置き場の**受け入れを前提**に、**計画の合理性、安全性**等について話し合いを行います。
- リニア中央新幹線の必要性、発生土置き場の活用については、話し合いの対象となりません。
- この後（第1回）で話し合いのテーマを決定し、**第2回以降は各回のテーマについて話し合い**を行います。

進行方法

- 中立な運営を行うため、**ファシリテーターが進行**します。
- 開催**資料は1週間前を目処に公開**し、事前に質問も受け付けます。
- **会場からの質問も受け付け**ます。
- 質問に対しては、当日の回答を必要とせず、次回フォーラムで回答することもあります。
- 原則 **2時間以内**とします。
- フォーラムの様子は、後日御嵩町役場のホームページ（YouTubeチャンネル）で**動画配信**します。

話し合いの約束

- 他人を傷つける発言をしない
- 多くの方の声を聞くために、短く話す。演説をしない。
- 発言を最後まで聞く。

笹尾英嗣先生

所属	日本原子力研究開発機構 東濃地科学センター 地層科学研究部長
学位	博士（理学）
専門分野	ウラン鉱床

玉木一郎先生

所属	岐阜県立森林文化アカデミー 准教授
学位	博士（農学）
専門分野	森林生態学、集団遺伝学

千頭聡先生

所属	日本福祉大学 国際福祉開発学部 特任教授
学位	修士（工学）
専門分野	環境政策、社会学、地域研究

日比幸人先生

所属	公益社団法人日本技術士会 公益社団法人日本経営工学会
資格	技術士（経営工学部門、総合技術監理部門）
専門分野	リスクコミュニケーション

日比義彦先生

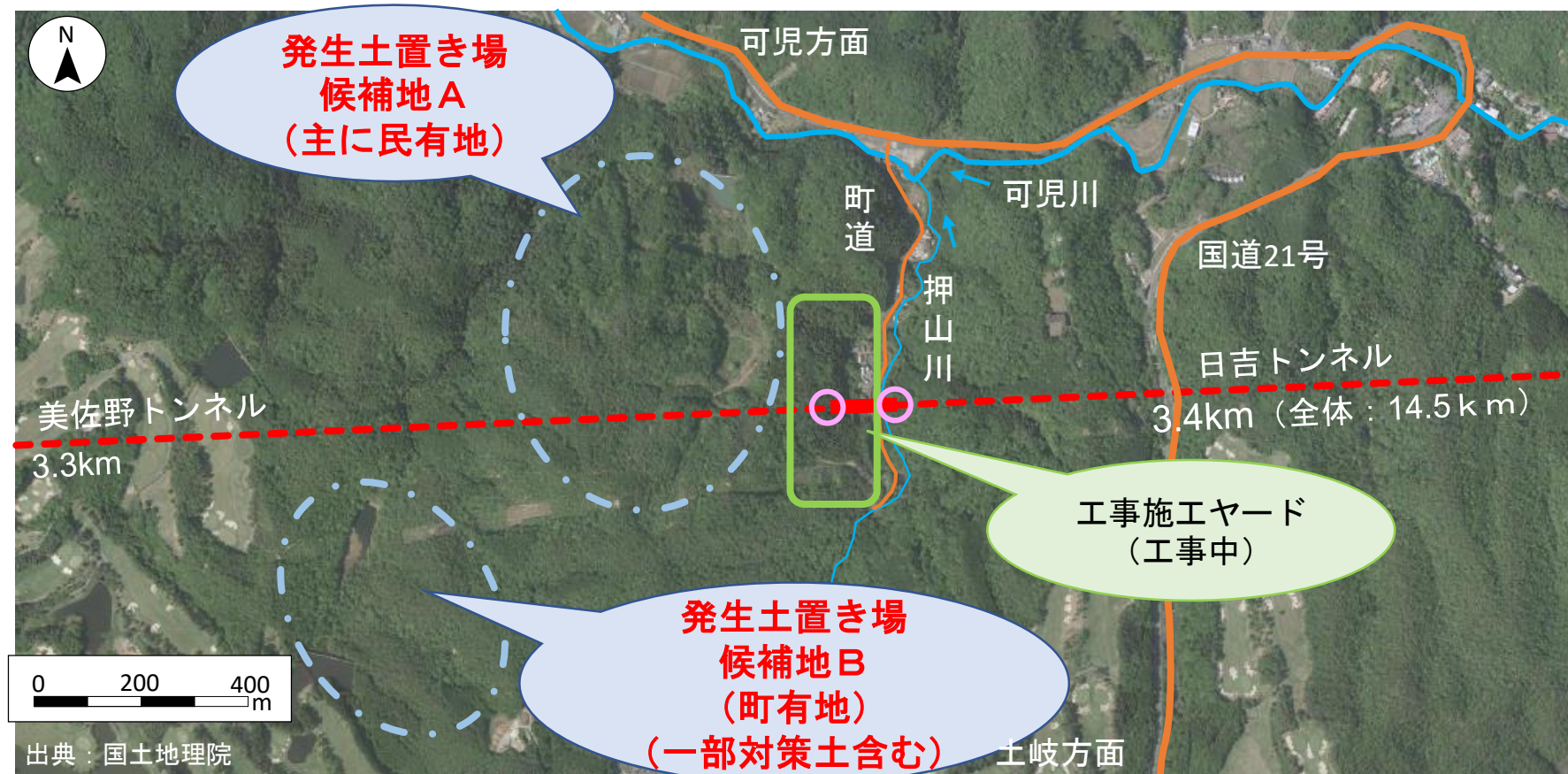
所属	名城大学 理工学部 教授
学位	博士（工学）
専門分野	地下水学、 土壌・地下水汚染

藤井幸泰先生

所属	名城大学 理工学部 教授
学位	博士（理学）、博士（工学）
専門分野	地盤工学、応用地質学

美佐野工区の概要

④発生土置き場に係る経緯



<凡例>

- : 工事施工ヤード (工事中)
- ... : トンネル (今後実施予定)
- : 橋りょう (今後実施予定)
- : トンネル坑口

出所：令和3年7月JR東海住民説明会資料より抜粋

経緯

- 昭和53年：リニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会に加わる
- 平成25年：「リニア建設発生土の活用（受入）検討候補地」の照会に対し、建設発生土が活用できる土であるとの認識の上、町有地を発生土活用候補地として情報提供（候補地B）
- 平成27年：候補地Bに隣接する民有地を発生土活用候補地 2 箇所目として情報提供（候補地A）
 - 候補地Aに全量を搬入する計画によりJR東海と地権者・町が協議
 - 候補地Aの計画変更（縮小）により受入容量が不足
 - 候補地Bへの搬入についてJR東海が検討

- ・ 令和元年8月：候補地Bへの搬入についてJR東海から町長・町議会議員に説明
（対策土搬入・遮水シートによる封じ込め工法の説明を含む）
- ・ 令和元年11月：候補地Bへの搬入についてJR東海から町長・町議会議員に説明
- ・ 令和元年12月：町議会にて町長答弁
「町有地への対策土の搬入が出てきたことには、非常に戸惑った。判断するには最低1年はかかる。受け入れないと言うとどこが受けるのかという話。しっかり考えるということ。」
- ・ 令和2年11月：候補地Bへの搬入についてJR東海から町長・町議会議員に説明
- ・ 令和3年2月：候補地Bへの搬入についてJR東海から町長・町議会議員に説明
- ・ 令和3年8月：町長が対策土の安全性について専門家と面談・確認

経緯

専門家との面談内容1（概要）

- ・ **JR東海の計画は安全対策として現代の技術として最高の方法か。**
→ 一般的に使われている工法。遮水シートがきちんと処理されれば問題ない。
- ・ **最終の表層の仕上げで最も適切な方法は何か。**
→ ゴム系のシートであれば水で劣化しない。不具合の対応のためにはアスファルトはしないほうがよいと思われる。
- ・ **浸入水をできるだけ少なくする方法はあるか。**
→ 盛土の一番下部できちんと排水を確保すること。その上で周りの水を遮断し、降雨時の変化も調査し、丁寧に施工することが大事である。

経緯

専門家との面談内容2（概要）

- ・ **JR東海の計画で排水能力は確保できるのか。**
→ 通常ため池の状態であったのであれば、流れ込む量、流れ出す量を調査し、対応できる暗渠管を用意すること。水が入ってきそうなところに枝管を作り、中央の主管に集水するのは通常の手法であり、設計手法は確立されている。
- ・ **封じ込め処分土全体が動いてしまうような事案の心配はないか。**
→ 袋の下に入り込んだ水の圧力が袋の重量を越えたときに浮き上がる。水を丁寧に処理することが重要であり、きちんと水の処理をしていれば、余程何か起こることはない。
- ・ **地すべり感知センサーは有効か。**
→ 広大な面積においてはセンサーで予測していくことは困難である。ドローンで全体を測量して全体が動いていないか確認することが現実的と思われる。

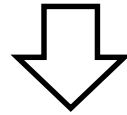
- 令和3年9月：町長議会答弁

「要対策土の受け入れを前提としてJR側と協議に入る」（以下理由）

- 一、自然由来の土であること。
- 一、御嵩町の工区から発生する土であること。
- 一、産業廃棄物処分場問題の際「何故、全国の廃棄物を御嵩町で...？」と疑義を呈した。そういう意味で、論理には整合性を持たせなければならないこと。
- 一、反対の声はあれど、解決策はないこと。私の立場も消極的賛成です。
- 一、当初より、これは町民に判断を委ねる性質の問題ではないと考えていたこと。
- 一、専門家と話ができ、一定の理解と納得ができたこと。専門家とは、リニア中央新幹線事業に直接関わっていない、地盤工学、水環境学、土壌環境学の先生方です。
- 一、御嵩町は昭和53年、原町政の時代から、リニア中央新幹線建設促進岐阜県期成同盟会の一員として、歴史を重ねてきたこと。
- 一、本年（令和3年）7月15日、岐阜県期成同盟会に於いて、説明会など「スケジュールありきではなく」との知事の発言がありました。また、決議6項目目で、発生土に関連し“工事の安全対策に万全を尽くすとともに、沿線自治体及び住民に対し、丁寧な説明及び情報提供に努めること”の一文が含まれ決議されたこと。

- ・ 令和3年12月：町長議会答弁

「今後、審議会のようなものを作って専門家の意見を聞きながらJRと協議していく」



- ・ 令和4年4月1日：

「御嵩町リニア発生土置き場に関するフォーラム」を設置

- ・ 令和4年5月28日：

第1回 御嵩町リニア発生土置き場に関するフォーラム 開催